

第57回 静岡県公衆衛生研究会 優秀演題ホームページ掲載要旨

分科会名	第 2 分科会	演題番号	203
題名	1歳6か月児健康診査における言葉の発達に影響する要因の検討		
所属	静岡市 葵区役所健康支援課 静岡県立総合病院		
氏名	池田 玲子 青木 明子 鈴木 光恵 高木 明 中谷 英仁		
要旨 (簡潔に)	<p>本市では、1歳6か月児健康診査（以下1.6健診とする）において、問診票をもとに有意語4語以下の児を言葉の遅れがあるとして、その後もフォローをしている。近年、児に難聴がないにもかかわらず、言葉の遅れでフォローする児の割合が増えてきている。</p> <p>児の言葉の遅れは環境要因が大きな影響を与えているものと想定し、1.6健診時点でのクロスセクショナル研究を行った。</p> <p>対象は、平成28年4月から令和2年2月の期間に1.6健診を静岡市城東保健福祉センター（以下城東HCとする）で受診した児のうち、令和2年5月18日時点において城東HC管内に居住している児とした。解析方法は有意語4語以下の有無をアウトカムとし、関連因子候補を説明変数とした場合の単・多変量ロジスティック回帰分析モデルを用いた。</p> <p>その結果、1.6健診を受けた児は1,649人、そのうち有意語4語以下の児は342人（20.7%）だった。問診項目のうち、男児、月齢が低い幼児、在胎週数が少ない幼児、後ろから「シー」とささやくと振り向かない、簡単な言葉による指示に従わない、ほかの子供に関心を示さない、おしっこやうんちのしつけを開始していない、の部分集団で4語以下の頻度が多く、これらの部分集団の組み合わせが関連に強く寄与していた。</p> <p>このことから、1.6健診時点での言葉の遅れには、児の環境因子や習慣は影響を与えないことが分かるとともに、影響する関連因子が明らかになった。</p>		